

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジシノ トウシヤ 学校法人 同志社								
フリガナ大学の名称	トウシヤジヨウダガクダイケイ 同志社女子大学大学院 (Graduate School of Doshisha Women's College)								
大学の位置	京都府京田辺市興戸南鉾立九七番壱								
大学の目的	本大学院は、立学の精神に基づき学部の教育の基礎のうえに、学術の理論および応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養い、文化の進展に寄与する女性の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	本研究科は、理論と実践に基づいた研究能力およびエビデンスとナラティブを統合できる看護実践能力を備え、看護現象を探究し、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与できる人材として、リサーチマインドを有し臨床における判断力や指導力、専門的知識と技術の向上・開発を目指す看護職者、精深な学識と研究能力を修得し教育研究者を目指す看護職者、時代の流れに沿った医療環境の大きな変化に対応できる高度な知識・技術を有した助産師の養成を主たる目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部 看護学科  14条特例の実施
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing Science]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	京都府京田辺市興戸南鉾立九七番壱	
	看護学専攻 [Nursing Science]	2	6	—	#	修士 (看護学)	平成30年4月 第1年次		
	計		6	—	12				
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	別紙のとおり								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	看護学研究科 看護学専攻	28科目	6科目	5科目	39科目	看護学研究分野 30単位 助産学実践分野 58単位			

	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
教員組織の概要	新設分	看護学研究科 看護学専攻 修士課程	7 (7)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	31 (16)
		計	7 (7)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	1 (1)	- (-)
	既設分	文学研究科 英語英文学専攻 (博士前期課程)	12 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	14 (15)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 英語英文学専攻 (博士後期課程)	5 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (6)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 日本語日本文化専攻 (博士前期課程)	17 (19)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	18 (20)	0 (0)	7 (7)
		文学研究科 日本語日本文化専攻 (博士後期課程)	3 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 情報文化専攻	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)
		国際社会システム研究科 国際社会システム専攻	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)
		生活科学研究科 生活デザイン専攻	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		生活科学研究科 食物栄養科学専攻	13 (13)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)
薬学研究科 医療薬学専攻		14 (14)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
計	92 (97)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	104 (109)	0 (0)	- (-)		
合計		99 (104)	17 (17)	2 (2)	1 (1)	119 (124)	1 (1)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事務職員		75 (75)		97 (97)		172 (172)		
	技術職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
	図書館専門職員		3 (3)		0 (0)		3 (3)		
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計		78 (78)		97 (97)		175 (175)			
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	145,683.62㎡	0㎡		0㎡		145,683.62㎡		
	運動場用地	9,284.68㎡	0㎡		0㎡		9,284.68㎡		
	小 計	154,968.30㎡	0㎡		0㎡		154,968.30㎡		
	そ の 他	7,480.01㎡	0㎡		0㎡		7,480.01㎡		
	合 計	162,448.31㎡	0㎡		0㎡		162,448.31㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		92,910.86㎡ (92,910.86㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		92,910.86㎡ (92,910.86㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	85室	72室	238室		19室 (補助職員 5人)		3室 (補助職員 2人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学研究科			14 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	申請研究科全体	
	看護学研究科	98〔11〕 (98〔11〕)	-〔-〕 -〔-〕	-〔-〕 -〔-〕	10 (10)	19 (19)	- (-)		
	計	98〔11〕 (98〔11〕)	-〔-〕 -〔-〕	-〔-〕 -〔-〕	10 (10)	19 (19)	- (-)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		9,614.12㎡		802		721,675			

貸与者：財団法人  
借用期間  
2013年6月から30年間  
4,115.19㎡

体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		6,277.64㎡		テニスコート6面			弓道場			
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体
		教員1人当り研究費等		410千円	410千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		17,660千円	23,360千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	0千円	700千円	0千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	14,617千円	0千円	0千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,130千円	950千円	－千円	－千円	－千円	－千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費は、学生納付金に加え、手数料、資産運用収入、雑収入により充当する。							
大学の名称		同志社女子大学								備考
既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	学芸学部 日本語日文学科	4年	—	—	—	学士(文学)	1.10	平成元年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町602番地1	・平成21年度より学生募集停止
	音楽学科 演奏専攻	4	75	—	305	学士(音楽)	1.09	昭和40年度	京都府京田辺市興戸南針立97番1	・平成29年度より3年次編入学学生募集停止
	音楽学科 音楽文化専攻	4	40	—	165	学士(音楽)	1.21	昭和40年度	同上	・平成29年度より3年次編入学学生募集停止
	情報メディア学科	4	120	—	480	学士(情報メディア)	1.08	平成14年度	同上	
	国際教養学科	4	80	—	320	学士(国際教養学)	1.10	平成19年度	同上	
	現代社会学部 社会システム学科	4	300	—	1,210	学士(社会システム)	1.10 1.11	平成12年度	同上	・平成29年度より3年次編入学学生募集停止
	現代こども学科	4	100	—	400	学士(現代社会)	1.10	平成16年度	同上	
	薬学部 医療薬学科	4	—	—	—	学士(薬学)	—	平成17年度	同上	
	薬学部 医療薬学科	6	120	—	720	学士(薬学)	1.10 1.10	平成18年度	同上	
	看護学部 看護学科	4	80	—	240	学士(看護学)	1.02 1.02	平成27年度	同上	
	表象文化学部 英語日文学科	4	145	—	600	学士(文学)	1.11 1.11	平成21年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町602番地1	・平成27年4月から入学定員を次のとおり変更 160人→145人 [△15] ・平成29年度より3年次編入学学生募集停止
	日本語日文学科	4	120	—	495	学士(文学)	1.11	平成21年度	同上	・平成27年4月から入学定員を次のとおり変更 130人→120人 [△10] ・平成29年度より3年次編入学学生募集停止
	生活科学部 人間生活学科	4	80	—	320	学士(生活科学)	1.11 1.14	昭和42年度	同上	
	食物栄養科学科 食物科学専攻	4	55	—	220	学士(生活科学)	1.15	昭和44年度	同上	
	食物栄養科学科 管理栄養士専攻	4	80	—	320	学士(生活科学)	1.06	昭和44年度	同上	

	大学の名称	同志社女子大学							備考
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既設大学等の状況	大学院								
	文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）	2	8	—	16	修士 （英語英文学）	0.18	昭和 42年度	京都市上京区今出川 通烏丸東入玄武町 602番地1
	文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士 （英語英文学）	0.08	昭和 50年度	同 上
	文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）	2	10	—	20	修士 （日本語日本文化）	0.20	平成 9年度	同 上
	文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士 （日本語日本文化）	0.16	平成 12年度	同 上
	文学研究科 情報文化専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 （情報文化）	0.50	平成 20年度	京都府京田辺市興戸 南録立97番1
	国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 （国際社会システム）	0.05	平成 16年度	同 上
	薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程	4	4	—	16	博士 （薬学）	0.31	平成 24年度	同 上
	生活科学研究科 生活デザイン専攻 修士課程	2	5	—	10	修士 （生活デザイン）	0.20	平成 20年度	京都市上京区今出川 通烏丸東入玄武町 602番地1
	生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 （食物栄養科学）	0.75	昭和 43年度	同 上

大学等の名称	大学の志							
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
神学部	年	人	年次	人		倍		
神学科	4	60	—	240	学士(神学)	1.05	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
文学部						1.03		
英文学科	4	300	—	1200	学士(英文学) 学士(国際教養)	1.02	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
哲学科	4	65	—	260	学士(哲学) 学士(国際教養)	1.05	平成17年度	同 上
美学芸術学科	4	65	—	260	学士(美学芸術学) 学士(国際教養)	1.06	平成17年度	同 上
文化史学科	4	120	—	480	学士(文化史学) 学士(国際教養)	1.06	平成17年度	同 上
国文学科	4	120	—	480	学士(国文学) 学士(国際教養)	1.04	平成17年度	同 上
社会学部						1.08		
社会学科	4	82	—	328	学士(社会学) 学士(国際教養)	1.12	平成17年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
社会福祉学科	4	93	—	372	学士(社会福祉学) 学士(国際教養)	1.03	平成17年度	同 上
メディア学科	4	83	—	332	学士(メディア学) 学士(国際教養)	1.10	平成17年度	同 上
産業関係学科	4	82	—	328	学士(産業関係学) 学士(国際教養)	1.03	平成17年度	同 上
教育文化学科	4	75	—	300	学士(教育文化学) 学士(国際教養)	1.10	平成17年度	同 上
法学部						1.03		
法律学科	4	650	—	2600	学士(法学) 学士(国際教養)	1.01	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
政治学科	4	200	—	800	学士(政治学) 学士(国際教養)	1.06	昭和23年度	同 上
経済学部						1.08		
経済学科	4	850	—	3400	学士(経済学) 学士(国際教養)	1.08	昭和23年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
商学部						1.03		
商学科	4	850	—	3400	学士(商学) 学士(国際教養)	1.03	昭和24年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
政策学部						1.07		
政策学科	4	400	—	1600	学士(政策学) 学士(国際教養)	1.07	平成16年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
文化情報学部						1.11		
文化情報学科	4	280	—	1120	学士(文化情報学)	1.11	平成17年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
理工学部			3年次			1.10		
インテリジェント情報工学科	4	79	2	318	学士(工学)	1.03	平成6年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
情報システムデザイン学科	4	79	2	318	学士(工学)	1.05	平成16年度	同 上
電気工学科	4	74	2	298	学士(工学)	1.17	昭和24年度	同 上
電子工学科	4	84	2	338	学士(工学)	1.10	昭和38年度	同 上
機械システム工学科	4	89	2	358	学士(工学)	1.23	昭和24年度	同 上
エネルギー機械工学科	4	69	2	278	学士(工学)	1.15	昭和38年度	同 上
機能分子・生命化学科	4	79	2	318	学士(工学) 学士(理学)	1.02	平成6年度	同 上
化学システム創成工学科	4	79	2	318	学士(工学)	1.11	平成6年度	同 上
環境システム学科	4	49	2	198	学士(工学) 学士(理学)	1.01	平成16年度	同 上

既設大学等の状況

平成25年度より昼夜開講制によるコース制廃止

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次	人		倍		
	数理システム学科	4	39	2	158	学士(理学)	1.10	平成20年度	同上
	生命医科学部						1.07		
	医工学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.09	平成20年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3
	医情報学科	4	90	—	360	学士(工学)	1.08	平成20年度	同上
	医生命システム学科	4	60	—	240	学士(理学)	1.04	平成20年度	同上
	スポーツ健康科学部						1.07		
	スポーツ健康科学科	4	210	—	840	学士(スポーツ健康科学)	1.07	平成20年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3
	心理学部						1.06		
	心理学科	4	150	—	600	学士(心理学)	1.06	平成21年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3
	グローバル・コミュニケーション学部						0.99		
	グローバル・コミュニケーション学科	4	150	—	600	学士(グローバル・コミュニケーション学)	0.99	平成23年度	京都府京田辺市多々羅都谷1番地3
	グローバル地域文化学部						1.07		
	グローバル地域文化学科	4	180	—	720	学士(グローバル地域文化学)	1.07	平成25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地
	大学院								
	博士前期課程及び修士課程								
	神学研究科								
	神学専攻	2	20	—	40	修士(神学) 修士(一神教研究)	0.82	平成19年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地
	文学研究科								
	哲学専攻	2	10	—	20	修士(哲学)	0.25	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地
	英文学・英語学専攻	2	20	—	40	修士(英文学) 修士(英語学)	0.07	昭和25年度	同上
	文化史学専攻	2	15	—	30	修士(文化史学)	0.66	昭和26年度	同上
	国文学専攻	2	10	—	20	修士(国文学)	0.55	昭和37年度	同上
	美学芸術学専攻	2	5	—	10	修士(美学) 修士(芸術学)	1.10	昭和63年度	同上
	社会学研究科								
	社会福祉学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉学)	1.00	平成17年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地
	メディア学専攻	2	5	—	10	修士(メディア学)	0.60	平成17年度	同上
	教育文化学専攻	2	7	—	14	修士(教育文化学)	0.78	平成17年度	同上
	社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.55	平成17年度	同上
	産業関係学専攻	2	5	—	10	修士(産業関係学)	0.70	平成17年度	同上
	法学研究科								
	政治学専攻	2	40	—	80	修士(政治学) 修士(アジア太平洋研究・政治学) 修士(比較政治学)	0.26	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地
	私法学専攻	2	45	—	90	修士(法学) 修士(比較法学)	0.53	昭和26年度	同上
	公法学専攻	2	45	—	90	修士(法学) 修士(比較法学)	0.34	昭和38年度	同上
	経済学研究科								
	理論経済学専攻	2	25	—	50	修士(経済学)	0.18	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地
	応用経済学専攻	2	25	—	50	修士(経済学)	0.44	昭和25年度	同上
	商学研究科								
	商学専攻	2	65	—	130	修士(商学)	0.15	昭和25年度	京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601番地

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次	人		倍		
	総合政策科学研究科 総合政策科学専攻	2	70	—	140	修士（政策科学） 修士（グローバル・イノベーション）	0.61	平成7年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	文化情報学研究科 文化情報学専攻	2	30	—	60	修士（文化情報学）	0.50	平成19年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	理工学研究科								
	情報工学専攻	2	60	—	120	修士（工学）	1.23	平成10年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	電気電子工学専攻	2	70	—	140	修士（工学）	1.05	昭和30年度	同 上
	機械工学専攻	2	80	—	160	修士（工学）	1.12	昭和30年度	同 上
	応用化学専攻	2	80	—	160	修士（工学） 修士（理学）	0.87	昭和30年度	同 上
	数理環境科学専攻	2	25	—	50	修士（工学） 修士（理学）	0.90	平成10年度	同 上
	生命医科学研究科								
	医工学・医情報学専攻	2	90	—	180	修士（工学）	1.03	平成24年度	同 上
	医生命システム専攻	2	20	—	40	修士（理学）	1.10	平成24年度	同 上
	スポーツ健康科学研究科 スポーツ健康科学専攻	2	8	—	16	修士（スポーツ健康科学）	1.06	平成22年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	心理学研究科 心理学専攻	2	10	—	20	修士（心理学）	1.05	平成21年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3
	グローバル・スタディーズ研究科 グローバル・スタディーズ専攻	2	45	—	90	修士（アジア研究） 修士（現代アジア研究） 修士（グローバル社会研究）	0.60	平成22年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	ビジネス研究科 グローバル経営研究専攻	2	45	—	90	修士（経営学）	0.98	平成26年度	同 上
	博士後期課程								
	神学研究科 神学専攻	3	5	—	15	博士（神学） 博士（一神教研究）	0.53	昭和28年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	文学研究科 哲学専攻	3	5	—	15	博士（哲学）	0.13	昭和28年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	英文学・英語学専攻	3	4	—	12	博士（英文学） 博士（英語学）	0.33	昭和30年度	同 上
	文化史学専攻	3	4	—	12	博士（文化史学）	0.91	昭和30年度	同 上
	国文学専攻	3	3	—	9	博士（国文学）	0.77	昭和61年度	同 上
	美学芸術学専攻	3	3	—	9	博士（芸術学）	0.88	平成8年度	同 上
	社会学研究科 社会福祉学専攻	3	6	—	18	博士（社会福祉学）	0.88	平成17年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地
	メディア学専攻	3	2	—	6	博士（メディア学）	0.16	平成17年度	同 上
	教育文化学専攻	3	3	—	9	博士（教育文化学）	0.11	平成17年度	同 上
	社会学専攻	3	5	—	15	博士（社会学）	0.40	平成17年度	同 上
	産業関係学専攻	3	2	—	6	博士（産業関係学）	0.00	平成17年度	同 上

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
		年	人	年次	人		倍				
	法学研究科										
	政治学専攻	3	5	—	15	博士（政治学）	0.53	昭和28年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	私法学専攻	3	5	—	15	博士（法学）	0.66	昭和38年度	同 上		
	公法学専攻	3	5	—	15	博士（法学）	0.73	昭和51年度	同 上		
	経済学研究科										
	経済政策専攻	3	5	—	15	博士（経済学）	0.66	昭和32年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	商学研究科										
	商学専攻	3	5	—	15	博士（商学）	0.53	昭和40年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	総合政策科学研究科										
	総合政策学専攻	3	15	—	45	博士（政策科学） 博士（ソーシャル・イノベーション）	0.88	平成9年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		
	文化情報学研究科										
	文化情報学専攻	3	5	—	15	博士（文化情報学）	0.80	平成19年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	理工学研究科										
	情報工学専攻	3	5	—	15	博士（工学）	0.80	平成12年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	電気電子工学専攻	3	7	—	21	博士（工学）	0.66	昭和32年度	同 上		
	機械工学専攻	3	8	—	24	博士（工学）	0.70	昭和32年度	同 上		
	応用化学専攻	3	7	—	21	博士（工学） 博士（理学）	0.61	昭和34年度	同 上		
	数理環境科学専攻	3	3	—	9	博士（工学） 博士（理学）	0.00	平成21年度	同 上		
	生命医科学研究科										
	生命医科学専攻	3	—	—	—	博士（工学） 博士（理学）	—	平成20年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3	平成24年4月より学生募集 集停止	
	医工学・医情報学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	2.16	平成24年度	同 上		
	医生命システム専攻	3	12	—	36	博士（理学）	0.30	平成24年度	同 上		
	スポーツ健康科学研究科										
	スポーツ健康科学専攻	3	3	—	9	博士（スポーツ健康科学）	0.88	平成24年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	心理学研究科										
	心理学専攻	3	4	—	12	博士（心理学）	1.08	平成21年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3		
	アメリカ研究科										
	アメリカ研究専攻	3	—	—	—	博士（アメリカ研究）	—	平成5年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成22年4月より学生募集 集停止	
	グローバル・スタディーズ研究科										
	グローバル・スタディーズ専攻	3	18	—	54	博士（アメリカ研究） 博士（現代アジア研究） 博士（グローバル社会研究）	0.90	平成22年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次	人		倍			
	一貫制博士課程									
	総合政策科学研究科 技術・革新的経営専攻	5	—	—	—	修士（技術・革新的経営） 博士（技術・革新的経営）	—	平成21年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成29年4月より学生募集停止
	脳科学研究科 発達加齢脳専攻	5	10	—	50	博士（理学）	0.56	平成24年度	京都府京田辺市多々羅 都谷1番地3	
	専門職学位課程									
	司法研究科 法務専攻	3	70	—	210	法務博士（専門職）	0.81	平成16年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	
	ビジネス研究科 ビジネス専攻	2	30	—	100	ビジネス修士（専門職）	0.70	平成16年度	京都市上京区今出川通 烏丸東入玄武町601番地	平成29年度より入学定員減（△40人）
附属施設の概要	<p>名称：薬用植物園（同志社女子大学薬学部・薬学研究科専用）          目的：薬用植物の栽培と品質に関する研究ならびに薬用植物の自生状況の研究          所在地：京都府京田辺市興戸地藏谷57          設置年月：平成17年4月          面積：1,007㎡</p>									

## 同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)

平成30年4月より次の通り変更

## ● 同志社女子大学

・学芸学部情報メディア学科→学芸学部メディア創造学科へ学科名称変更(平成29年4月届出予定)□

## ● 同志社大学

・学部入学定員の変更(平成29年3月学則変更認可申請)

神学部	神学科	入学定員	60	編入学定員	0	收容定員	240	
		→ 入学定員	63 (+3)	編入学定員	0	收容定員	252	(+12)
文学部	英文学科	入学定員	300	編入学定員	0	收容定員	1,200	
		→ 入学定員	315 (+15)	編入学定員	0	收容定員	1,260	(+60)
	哲学科	入学定員	65	編入学定員	0	收容定員	260	
		→ 入学定員	70 (+5)	編入学定員	0	收容定員	280	(+20)
	美学芸術学科	入学定員	65	編入学定員	0	收容定員	260	
		→ 入学定員	70 (+5)	編入学定員	0	收容定員	280	(+20)
文化史学科	入学定員	120	編入学定員	0	收容定員	480		
	→ 入学定員	125 (+5)	編入学定員	0	收容定員	500	(+20)	
国文学科	入学定員	120	編入学定員	0	收容定員	480		
	→ 入学定員	125 (+5)	編入学定員	0	收容定員	500	(+20)	
社会学部	社会学科	入学定員	82	編入学定員	0	收容定員	328	
		→ 入学定員	90 (+8)	編入学定員	0	收容定員	360	(+32)
	社会福祉学科	入学定員	93	編入学定員	0	收容定員	372	
		→ 入学定員	98 (+5)	編入学定員	0	收容定員	392	(+20)
	メディア学科	入学定員	83	編入学定員	0	收容定員	332	
→ 入学定員	88 (+5)	編入学定員	0	收容定員	352	(+20)		
産業関係学科	入学定員	82	編入学定員	0	收容定員	328		
	→ 入学定員	87 (+5)	編入学定員	0	收容定員	348	(+20)	
教育文化学科	入学定員	75	編入学定員	0	收容定員	300		
	→ 入学定員	79 (+4)	編入学定員	0	收容定員	316	(+16)	
法学部	法律学科	入学定員	650	編入学定員	0	收容定員	2,600	
		→ 入学定員	683 (+33)	編入学定員	0	收容定員	2,732	(+132)
政治学科	入学定員	200	編入学定員	0	收容定員	800		
	→ 入学定員	210 (+10)	編入学定員	0	收容定員	840	(+40)	
経済学部	経済学科	入学定員	850	編入学定員	0	收容定員	3,400	
		→ 入学定員	893 (+43)	編入学定員	0	收容定員	3,572	(+172)
商学部	商学科	入学定員	850	編入学定員	0	收容定員	3,400	
		→ 入学定員	893 (+43)	編入学定員	0	收容定員	3,572	(+172)
政策学部	政策学科	入学定員	400	編入学定員	0	收容定員	1,600	
		→ 入学定員	420 (+20)	編入学定員	0	收容定員	1,680	(+80)
文化情報学部	文化情報学科	入学定員	280	編入学定員	0	收容定員	1,120	
		→ 入学定員	294 (+14)	編入学定員	0	收容定員	1,176	(+56)

## 同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)

理工学部	インテリジェント情報工学科	→	入学定員	79	編入学定員	2	収容定員	320	
			入学定員	83 (+4)	編入学定員	2	収容定員	336	(+16)
	情報システムデザイン学科	→	入学定員	79	編入学定員	2	収容定員	320	
			入学定員	83 (+4)	編入学定員	2	収容定員	336	(+16)
	電気工学科	→	入学定員	74	編入学定員	2	収容定員	300	
			入学定員	80 (+6)	編入学定員	2	収容定員	324	(+24)
	電子工学科	→	入学定員	84	編入学定員	2	収容定員	340	
			入学定員	86 (+2)	編入学定員	2	収容定員	348	(+8)
	機械システム工学科	→	入学定員	89	編入学定員	2	収容定員	360	
			入学定員	96 (+7)	編入学定員	2	収容定員	388	(+28)
	エネルギー機械工学科	→	入学定員	69	編入学定員	2	収容定員	280	
		入学定員	70 (+1)	編入学定員	2	収容定員	284	(+4)	
機能分子・生命化学科	→	入学定員	79	編入学定員	2	収容定員	320		
		入学定員	83 (+4)	編入学定員	2	収容定員	336	(+16)	
化学システム創成工学科	→	入学定員	79	編入学定員	2	収容定員	320		
		入学定員	83 (+4)	編入学定員	2	収容定員	336	(+16)	
環境システム学科	→	入学定員	49	編入学定員	2	収容定員	200		
		入学定員	51 (+2)	編入学定員	2	収容定員	208	(+8)	
数理システム学科	→	入学定員	39	編入学定員	2	収容定員	160		
		入学定員	41 (+2)	編入学定員	2	収容定員	168	(+8)	
生命医科学部	医工学科	→	入学定員	90	編入学定員	0	収容定員	360	
			入学定員	100 (+10)	編入学定員	0	収容定員	400	(+40)
	医情報学科	→	入学定員	90	編入学定員	0	収容定員	360	
		入学定員	100 (+10)	編入学定員	0	収容定員	400	(+40)	
医生命システム学科	→	入学定員	60	編入学定員	0	収容定員	240		
		入学定員	65 (+5)	編入学定員	0	収容定員	260	(+20)	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	→	入学定員	210	編入学定員	0	収容定員	840	
			入学定員	221 (+11)	編入学定員	0	収容定員	884	(+44)
心理学部	心理学科	→	入学定員	150	編入学定員	0	収容定員	600	
			入学定員	158 (+8)	編入学定員	0	収容定員	632	(+32)
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科	→	入学定員	150	編入学定員	0	収容定員	600	
			入学定員	158 (+8)	編入学定員	0	収容定員	632	(+32)
グローバル地域文化学部	グローバル地域文化学科	→	入学定員	180	編入学定員	0	収容定員	720	
			入学定員	190 (+10)	編入学定員	0	収容定員	760	(+40)
	合計	→	入学定員	6,025	編入学定員	20	収容定員	24,140	
			入学定員	6,351 (+326)	編入学定員	20	収容定員	25,444	(+1,304)
	【備考】		コース別募集人数の内訳						
			グローバル・コミュニケーション学部 英語コース	85					
			グローバル・コミュニケーション学部 中国語コース	43					
			グローバル・コミュニケーション学部 日本語コース	30					
			グローバル地域文化学部 ヨーロッパコース	74					
			グローバル地域文化学部 アジア・太平洋コース	63					
			グローバル地域文化学部 アメリカコース	53					

教育課程等の概要																		
(看護学研究科看護学専攻)																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
共通科目	看護学研究特論	1春	2			○			3						オムニバス			
	看護研究方法論	1秋	2			○			2	1					オムニバス			
	科学英語論文クリティーク	1春		2		○									兼1			
	理論看護特論	1春	2			○			1									
	看護倫理特論	1春	2			○			1	2					オムニバス			
	看護教育特論	1春		2		○			1						兼1			
	看護管理特論	1秋		2		○									兼1			
	健康科学特論	1春		2		○			3						オムニバス			
小計(8科目)		—	8	8		—			7	3					兼3			
看護学研究科目	臨床看護学領域	成人看護学特論Ⅰ	1春		2		○			1	1					オムニバス		
		成人看護学特論Ⅱ	1秋		2		○			1	1					オムニバス		
		ウイメンズヘルス特論Ⅰ	1春		2		○				1							
		ウイメンズヘルス特論Ⅱ	1秋		2		○			1								
	広域看護学領域	高齢者・在宅看護学特論Ⅰ	1春		2		○			2						オムニバス		
		高齢者・在宅看護学特論Ⅱ	1秋		2		○			1	1					オムニバス		
		公衆衛生看護学特論Ⅰ	1春		2		○			1	2					オムニバス		
		公衆衛生看護学特論Ⅱ	1秋		2		○			1	2					オムニバス		
	看護学演習	1秋		4			○		6	4								
	小計(9科目)		—		20		—			6	5							
専門科目	助産学実践科目	基盤科目	助産学概論	1春		2		○			1					兼2	オムニバス	
			リプロダクティブヘルス論	1春		2		○			1						兼4	オムニバス
			ペアレンティング援助論	1春		2		○				1	1				兼1	オムニバス
			妊娠期助産診断技術学	1春		2		○				1					兼2	オムニバス
			分娩期助産診断技術学	1秋		2		○					1				兼1	オムニバス
			産褥・新生児期助産診断技術学	1春		2		○				1					兼1	オムニバス
			助産診断技術学演習	1通		2			○			1	1				兼5	オムニバス
			地域母子保健論	1秋		1		○			1	1					兼2	オムニバス
			助産マネジメント論	1秋		2		○			1						兼3	オムニバス
			助産学実習Ⅰ	1春		2				○		1	1	1	1			
			助産学実習Ⅱ	1秋		7				○		1	1	1	1			
			助産学実習Ⅲ	2通		2				○		1	1	1	1			
	小計(12科目)		—		28		—			2	2	1	1	1		兼19		
	助産学実践科目	発展科目	赤ちゃん学特論	1秋・2秋		2		○									兼1	隔年
			国際母子保健論	1秋・2秋		1		○				1					兼1	オムニバス 隔年
			統合ヘルスケア論	1秋		1		○									兼2	オムニバス
遺伝カウンセリング論			1秋・2秋		1		○									兼2	オムニバス 隔年	
リプロダクティブヘルス演習			2春		1			○		1	1					兼2	オムニバス	
高次助産診断技術学演習			2通		1			○		1						兼3	オムニバス	
助産学実習Ⅳ			2春		2				○	1	1	1	1	1				
助産学実習Ⅴ			2秋		2				○	1		1	1	1				
小計(8科目)		—		11		—			1	2	1	1	1		兼11			
特別研究	特別研究	2通		8				○		6	6							
	課題研究	2通		4				○		1	1							
	小計(2科目)		—		12		—			6	6							
合計(39科目)		—	8	79		—			7	6	1	1	1		兼31			

教 育 課 程 等 の 概 要														
(看護学研究科看護学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
学位又は称号		修士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)						
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等								
<p><b>【修了要件】</b></p> <p>○看護学研究分野 本研究科に2年以上在籍し、所定の授業科目について、必修科目8単位を含む30単位以上（共通科目12単位以上、看護学研究科目10単位以上、特別研究8単位（特別研究））を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>○助産学実践分野 本研究科に2年以上在籍し、所定の授業科目について、必修科目8単位を含む58単位以上（共通科目12単位以上、看護学研究科目4単位（ウイメンズヘルスト論Ⅰ、ウイメンズヘルスト論Ⅱ）、助産学実践科目38単位以上（基盤科目28単位、発展科目10単位以上）、特別研究4単位（課題研究））を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。 なお、助産師国家試験の受験に必要な保健師助産師看護師学校養成所指定規則第3条第3号に規定される必要科目28単位が含まれている。</p> <p><b>【履修方法】</b></p> <p>○看護学研究分野 「共通科目」は12単位以上（必修8単位、選択必修4単位以上） 「専門科目」は「看護学研究科目」の2領域から1領域を選択し2科目（成人看護学特論Ⅰ・Ⅱ、ウイメンズヘルスト論Ⅰ・Ⅱ、高齢者・在宅看護学特論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学特論Ⅰ・Ⅱのいずれか）4単位、その他の1科目2単位、看護学演習4単位を選択必修（選択必修10単位以上） 「特別研究」から特別研究8単位（選択必修）</p> <p>○助産学実践分野 「共通科目」から12単位以上（必修8単位、選択必修4単位以上） 「専門科目」は「看護学研究科目」から4単位（ウイメンズヘルスト論Ⅰ、ウイメンズヘルスト論Ⅱ）、「助産学実践科目」から38単位以上（基盤科目28単位、発展科目10単位以上（統合ヘルスクエア論、遺伝カウンセリング論以外の科目は全て履修すること）） 「特別研究」から課題研究4単位（選択必修）</p>						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(看護学部看護学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
共通学 芸科目	哲学A	1春		2		○								兼1
	哲学B	1秋		2		○								兼1
	西洋の思想A	1春		2		○								兼1
	西洋の思想B	1秋		2		○								兼1
	日本の思想A	1春		2		○								兼1
	日本の思想B	1秋		2		○								兼1
	宇宙の科学	1秋		2		○								兼1
	地球の科学	1春		2		○								兼1
	生命の科学	1春		2		○								兼1
	自然人類学	1春		2		○								兼1
	物質の科学	1秋		2		○								兼1
	生活環境の科学	1春		2		○								兼1
	自然科学史	1春		2		○								兼1
	科学技術と人間	1春		2		○								兼1
	心理学A	1春		2		○								兼1
	心理学B	1秋		2		○								兼1
	人格心理学	1春		2		○								兼1
	臨床心理学	1秋		2		○								兼1
	薬の発明・発見史 I	1春		2		○								兼1
	薬の発明・発見史 II	1秋		2		○								兼2 オムニバス
	女性のための医学	1秋		2		○								兼2 オムニバス
	日本国憲法	1春		2		○								兼1
	国際社会と法	1春		2		○								兼1
	法と市民生活	1秋		2		○								兼1
	国際関係論A	1春		2		○								兼1
	国際関係論B	1秋		2		○								兼1
	国際社会と経済A	1春		2		○								兼1
	国際社会と経済B	1秋		2		○								兼1
	日本経済のしくみ	1秋		2		○								兼1
	人間と社会A	1春		2		○								兼1
	人間と社会B	1秋		2		○								兼1
	異文化間コミュニケーション論	1秋		2		○								兼1
	マスコミュニケーション論A	1春		2		○								兼1
	マスコミュニケーション論B	1春		2		○								兼1
	情報と社会	1春		2		○								兼1
	社会保障と福祉	1秋		2		○								兼1
	介護概説	1春		2		○								兼1
	女性と社会	1秋		2		○								兼1
	日本女性史	1春		2		○								兼1
	外国文学と女性A	1春		2		○								兼1
	外国文学と女性B	1秋		2		○								兼1
	日本文学と女性	1秋		2		○								兼1
	ヨーロッパの歴史と文化A	1春		2		○								兼1
ヨーロッパの歴史と文化B	1秋		2		○								兼1	
日本の歴史と文化A	1春		2		○								兼1	
日本の歴史と文化B	1秋		2		○								兼1	
日本文化論	1秋		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通学芸科目	文化交流史	1春		2		○								兼2	オムニバス
	文化人類学A	1春		2		○								兼1	
	文化人類学B	1秋		2		○								兼1	
	アメリカ地域研究A	1春		2		○								兼3	オムニバス
	アメリカ地域研究B	1秋		2		○								兼3	オムニバス
	アジア地域研究A	1春		2		○								兼1	
	アジア地域研究B	1秋		2		○								兼1	
	日本古典芸能A	1春		2		○								兼1	
	日本古典芸能B	1秋		2		○								兼1	
	美術史	1春		2		○								兼1	
	音楽と諸芸術	1春		2		○								兼1	
	音楽と社会	1春		2		○								兼1	
	現代の音楽	1秋		2		○								兼1	
	映像文化論	1春		2		○								兼1	
	京都の文化A	1春		2		○								兼1	
	京都の文化B	1春		2		○								兼1	
	京都の文化C	1秋		2		○								兼1	
	京都の文化に触れるA	2春		2		○								兼1	
	京都の文化に触れるB	2春		2		○								兼1	
	京都の文化に触れるC	2春		2		○								兼1	
	京都の文化に触れるD	2春		2		○								兼1	
	京都の文化に触れるE	2春		2		○								兼7	オムニバス
	京都の歴史A	1春		2		○								兼1	
	京都の歴史B	1秋		2		○								兼1	
	教育の原理	2春		2		○								兼1	
	発達と学習の心理学	2春		2		○								兼1	
	教育の制度と経営	2秋		2		○								兼1	
	海外事情 (アメリカ)	1春		4			○							兼1	
	海外事情 (イギリス)	1秋		4			○							兼1	
	海外事情 (ニュージーランド)	1秋		4			○							兼1	
	海外事情 (カナダ)	1春		4			○							兼1	
	Japan Studies A	1秋		2		○								兼1	
	Japan Studies B	1秋		2		○								兼1	
	Japan Studies C	1秋		2		○								兼1	
	Japan Studies D	1秋		2		○								兼1	
	大学生活とキャリアデザインⅠ	1秋		2		○								兼1	
	大学生活とキャリアデザインⅡ	2春		2		○								兼1	
	大学生活とキャリアデザインⅢ	2秋		2		○								兼1	
	キャリアのための自己表現演習	2春		1			○							兼1	
	インターンシップ [大学コンソーシアム京都]	2通		2					○					兼1	
インターンシップⅠ	2通		2					○					兼1		
小計 (88科目)		—	0	183	0	—			0	0	0	0	0	兼66	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
キリスト教・同志社関係科目	聖書A	1春	2			○									兼1	オムニバス
	聖書B	1秋	2			○									兼1	
	キリスト教の歴史A	1春		2		○									兼1	
	キリスト教の歴史B	1春		2		○									兼1	
	キリスト教の歴史C	1秋		2		○									兼1	
	キリスト教文化論A	1秋		2		○									兼1	
	キリスト教文化論B	1秋		2		○									兼1	
	キリスト教文化論C	1春		2		○									兼1	
	キリスト教世界の探求A	1春		2		○									兼1	
	キリスト教世界の探求B	1秋		2		○									兼1	
	キリスト教世界の探求C	1春		2		○									兼1	
	近代日本と同志社B	1春		2		○									兼2	
	近代日本と同志社C	1春		2		○									兼1	
	近代日本と同志社D	1秋		2			○								兼1	
小計（14科目）		—	4	24	0			—	0	0	0	0	0	兼13	—	
外国語科目	英語講読ⅠA	1春	1				○								兼2	—
	英語講読ⅠB	1秋	1				○								兼2	
	英語コミュニケーションⅠA	1春	1				○								兼2	
	英語コミュニケーションⅠB	1秋	1				○								兼2	
	英語コミュニケーションⅡA	2春	1				○								兼1	
	英語コミュニケーションⅡB	2秋	1				○								兼1	
	初級フランス語基礎Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級フランス語基礎Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
	初級フランス語演習Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級フランス語演習Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
	初級ドイツ語基礎Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級ドイツ語基礎Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
	初級ドイツ語演習Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級ドイツ語演習Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
	初級中国語基礎	1春		2			○								兼1	
	初級中国語演習	1秋		2			○								兼1	
	初級ハンブルク基礎Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級ハンブルク基礎Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
	初級ハンブルク演習Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級ハンブルク演習Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
	初級イタリア語基礎Ⅰ	1春		1			○								兼1	
	初級イタリア語基礎Ⅱ	1秋		1			○								兼1	
初級イタリア語演習Ⅰ	1春		1			○								兼1		
初級イタリア語演習Ⅱ	1秋		1			○								兼1		
初級スペイン語基礎Ⅰ	1春		1			○								兼1		
初級スペイン語基礎Ⅱ	1秋		1			○								兼1		
初級スペイン語演習Ⅰ	1春		1			○								兼1		
初級スペイン語演習Ⅱ	1秋		1			○								兼1		
小計（28科目）		—	6	24	0			—	0	0	0	0	0	兼13	—	
スポーツ・健康科目	体育実技A	1春		1					○						兼1	—
	体育実技B	1秋		1					○						兼1	
	からだの科学	1春		2		○									兼1	
	ウェルネス健康論	1春		2		○									兼1	
	食物と健康	1秋		2		○									兼1	
	スポーツ文化論	1秋		2		○									兼1	
	スポーツ実習A	2春		1					○						兼1	
	スポーツ実習B	2秋		1					○						兼1	
小計（8科目）		—	0	12	0			—	0	0	0	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人体の構造と機能科目	体のしくみ	1春	2			○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼2 オムニバス オムニバス
		基盤病理学	1秋	2			○									
		微生物学・免疫学	1秋	2			○									
		基礎栄養学	1秋	2			○									
		基礎薬理学	1秋	2			○									
		外科疾病・治療学	2春	2			○									
		内科疾病・治療学	2春	2			○			1						
		こころのしくみと保健医療	2春	2			○				1					
		成育医療学	2秋	2			○									
		健康心理学	2秋	2	2			○			1					
	小計（10科目）	—	18	2	0				2	1	0	0	0	兼8	—	
健康支援と社会保障科目	疫学	疫学	2秋	2			○			1	1				オムニバス	
		公衆衛生学	2秋	2			○								兼1	
		看護と法律	2秋	2			○								兼1	
		家族関係論	3春	2	2			○			3				オムニバス	
		保健医療システム論	3春	2	2			○							兼2 オムニバス	
		保健医療統計	2秋	2	2			○			2				兼1 オムニバス	
	小計（6科目）	—	6	6	0				3	4	0	0	0	兼5	—	
専門科目	看護基礎科目	看護学概論	1春	2			○			1	1				オムニバス	
		看護理論	1春	1				○			1					
		ヘルスアセスメント	1春	1				○			1					
		フィジカルアセスメント	1秋	1				○			1					
		生活援助技術	1秋	2				○			2	1	1			
		診療補助技術	2春	2				○			2	1	1			
		看護過程論	2春	1				○			2	1	1			
		看護コミュニケーション論	1秋	1				○			2					オムニバス
		睡眠改善学	2春	2			○									兼1
		基礎看護学実習Ⅰ	1春	1					○		2	5	5	5		
		基礎看護学実習Ⅱ	2春	2					○		2	5	5	5		
	小計（11科目）	—	16	0	0				1	2	5	5	5	兼1	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	看護展開科目	成人看護学概論	2春	2			○			1	1					オムニバス	
		成人急性期看護援助論	2秋	1				○		1		1				オムニバス	
		成人リハビリテーション期看護援助論	3春	1				○		1		1				オムニバス	
		成人慢性期看護援助論A	2春	1				○			1	1				オムニバス	
		成人慢性期看護援助論B	2秋	1				○			1	1				オムニバス	
		がん看護援助論	3春	1				○			1	1				オムニバス	
		成人急性期看護学実習	3秋	3					○	1		1		2			
		成人慢性期看護学実習	3秋	3					○		1	1			2		
		精神看護学概論	2春	2				○			1						
		精神看護援助論A	2秋	1					○		1		1			オムニバス	
		精神看護援助論B	3春	1					○		1		1			オムニバス	
		精神看護学実習	3秋	2					○		1			2			
		母子保健看護概論	2秋	2				○			1	1				オムニバス	
		小児看護援助論A	3春	1					○			1					
		小児看護援助論B	3春	1					○					1			
		小児看護学実習	3秋	2						○		1		2	1		
		ウイメンズヘルス援助論A	3春	1					○				1				
		ウイメンズヘルス援助論B	3春	1					○			1					
		ウイメンズヘルス実習	3秋	2						○	1	1	1		1		
		高齢者看護学概論	2秋	2				○			2					オムニバス	
		高齢者看護援助論A	2秋	1					○		1						
		高齢者看護援助論B	3春	1					○				1				
		高齢者看護学実習	3秋	3						○	2	1	1	1			
		在宅看護援助論A	3春	1					○		1						
		在宅看護援助論B	3春	1					○			1					
		在宅看護学実習	3秋	2						○	2	3	1	1			
		公衆衛生看護学概論	2秋	2				○			1						
		健康教育論	2秋	1					○			1					
		国際保健	2秋	1					○			1					
		国際看護活動論	4春	1					○			1					
		小計（30科目）		—	45	0	0			—	5	7	4	5	5	0	—
		専門科目	看護探求科目	卒業研究Ⅰ	3春	1				○		1	2				オムニバス
卒業研究Ⅱ	4春			2				○		5	9	5	2				
卒業研究Ⅲ	4秋			2					○		5	9	5	2			
看護実践総合演習Ⅰ	1通			1					○		1	2	2	3			
看護実践総合演習Ⅱ	2通			1					○			3	1	5			
看護実践総合演習Ⅲ	3通			1					○		3	3	1	4			
看護実践総合演習Ⅳ	4通			1					○		1	1	2	4			
看護実践総合実習（アドバンス）	4春			3						○	5	9	5	6	5		
看護倫理	3春			1				○			1						
看護マネジメント	4春			1				○								兼1	
学校保健	3春				2			○								兼1	
近代看護教育の歴史	4春				1			○			1						
看護キャリアデザイン論	4秋				1			○								兼1	
災害看護論	4秋				1			○								兼1	
セルフケア支援論	4春				1			○				1					
終末期看護論	4春				1			○					1				
補完代替医療	4春				1			○			1						
臨床遺伝学と看護	4秋				1			○								兼1	
セーフティプロモーション論	4秋				1			○			1					兼2	
小計（19科目）				—	14	10	0			—	5	9	5	6	5	兼7	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
公衆衛生看護学関連科目	地域保健活動システム論	4春		1		○			1							
	家族相談援助論	4春		1		○				1						
	公衆衛生看護活動論Ⅰ	4春		1		○				1						
	公衆衛生看護活動論Ⅱ	4春		1		○				1						
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	4春		1		○			1							
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	4春		1		○				1						
	公衆衛生看護管理	4秋		1		○			1							
	公衆衛生看護展開論演習	4春		1			○		1	2						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4春		2				○	1	2						
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4秋		3				○	1	2						
小計（10科目）		—	0	13	0			—	1	2	0	0	0	0	—	
養護関連科目	養護概説	3春		2		○									兼1	
	教職実践演習（養護教諭）	4春		2			○			1						
	養護実習	4春		5				○	1	1						
小計（3科目）		—	0	9	0			—	1	1	0	0	0	兼1	—	
合計（230科目）			—	109	283	0			—	7	9	5	6	5	兼112	—
学位又は称号		学士（看護学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>【卒業要件】 本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、必修109単位を含む128単位以上を取得すること。</p> <p>【履修方法】 〈学科科目〉 「専門基礎科目」から26単位以上（必修24単位、選択必修2単位以上） 「専門科目」から78単位（必修75単位、選択必修3単位以上）</p> <p>〈全学共通科目〉 「共通学芸科目」から8単位以上（選択必修8単位以上） 「キリスト教・同志社関係科目」から6単位以上（必修4単位、選択必修2単位以上） 「外国語科目」から6単位以上（必修6単位） 「スポーツ・健康科目」から2単位以上（選択必修2単位以上） 「区分外領域（上記各科目区分のオーバー単位、他大学単位互換科目単位など）」から2単位以上（選択必修2単位以上）</p> <p>保健師国家試験受験資格取得のためには、「公衆衛生看護学関連科目」の全科目と、「専門基礎科目」「専門科目」の指定された科目を修得し、卒業要件単位と合わせて140単位以上を取得すること。</p> <p>養護教諭一種免許状取得のためには、「養護教諭関連科目」の全科目と、「専門基礎科目」「専門科目」の指定された科目、学則に定める「教職に関する科目」を修得し、卒業要件単位と合わせて145単位以上を取得すること。</p>								1学年の学期区分				2期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共 通 科 目	看護学研究特論	<p>看護研究の意義を理解し、国内外の研究論文クリティークを通してエビデンスとナラティブを統合した看護実践の探求につながる研究課題の明確化、研究方法と研究デザインの選択や倫理的に配慮された研究計画書の作成、論文の執筆、研究成果を看護実践に活用する方法を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 小松光代/9回) 研究のプロセスや倫理的配慮、研究計画、文献クリティークの方法、ナラティブモデルの基盤や手法、エビデンスとナラティブ統合の重要性について教授する。</p> <p>(② 眞鍋えみ子/4回) 研究および看護実践におけるエビデンスの探索、統合、看護実践への活用プロセスについて教授する。</p> <p>(③ 榎本妙子/2回) 文献検索法を教授するとともに文献クリティークを通して、研究課題を明確にする方法を教授する。</p>	オムニバス方式
	看護研究方法論	<p>看護学研究特論における学修をもとに研究課題の焦点化を図り、量的研究法(症例対照研究、コホート研究、介入研究)と質的研究法(質的記述的研究法)、並びに混合研究法の手続きや実際の手法を教授し、課題に応じた研究デザイン、研究計画の具現化について探索する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (2 小松光代/4回) 混合法について教授するとともに研究倫理審査の手続きや成果発表について解説する。</p> <p>(③ 榎本妙子/5回) 量的研究方法論文のクリティークを通して、研究課題に応じた研究デザインの選択とプロセスについて教授する。</p> <p>(10 木村洋子/6回) 質的研究論文のクリティークを通して、研究課題に応じた研究デザインの選択とプロセスについて教授する。</p>	オムニバス方式
	科学英語論文クリティーク	<p>文献探索エンジンを使用し、英語論文またはアブストラクト等を読み進めながらクリティークの基礎的な手法を学ぶ。国際的にコンセンサスの得られている研究デザイン別ガイドラインの紹介により、論文の識別や読み方、解釈の要点などについて検討し、特別研究、課題研究への手掛かりとする。</p>	
	理論看護特論	<p>看護学という学問を発展させるために看護職は日々看護実践の中でリサーチマインドをもって研究に取り組むことが求められている。研究の目的を大別すると理論生成と理論検証である。そこで理論に関連する用語を理解したうえで、看護領域における理論の考え方や理論開発方法について学習する。また、看護の知の5つの構成要素を学習することで、看護実践における理論の位置づけを検討するとともに、5つの知の統合によってもたらされる看護ケアを探究することを目指す。さらに、看護領域の研究の概念枠組に用いられる中範囲理論について検討する。</p>	
	看護倫理特論	<p>医療の現場では常に倫理的問題に遭遇している。看護職が倫理的問題を解決するためには、適切な倫理的判断能力を有することが求められる。そこで、医療・看護における倫理の基本原則および意思決定方法を学習する。そのうえで、臨床における看護の倫理的問題について意思決定プロセスの方法論を用いて分析し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 當目雅代/5回) 医療・看護の倫理原則に則り、社会における倫理的問題に対する意思決定プロセスの方法を教授する。</p> <p>(12 光木幸子/5回) 医療・看護の倫理的原則に則り、がん看護における倫理的問題に対する解決方法について教授する。</p> <p>(⑨ 杉原百合子/5回) 医療・看護の倫理的原則に則り、認知症看護における倫理的問題に対する解決方法を教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(看護学研究科看護学専攻)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
共通科目	看護教育特論	<p>近・現代における看護教育の歴史、看護教育制度の変遷をふまえて、看護基礎教育および看護継続教育の現状や今日的な課題について学修する。それらを通して、看護教育の基本的な理解を深め、生涯教育の視点に立った看護教育のあり方を検証する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑤ 岡山寧子/13回) 近・現代における看護教育の歴史、看護教育制度の変遷をふまえて、看護基礎教育の現状や今日的な課題について学士課程の事例などから考察する。</p> <p>(33 小笠幸子/2回) 看護継続教育の現状や今日的課題や展望について事例などから考察する。</p>	オムニバス方式		
	看護管理特論	<p>看護管理の歴史的な経緯をふまえ、看護実践者として看護の質向上のための組織の運営管理やマネジメントに必要な諸理論を学修する。また、看護活動に必要な保健医療福祉に関わる多職種間との連携・協働や看護組織における管理の実際について学修する。</p>			
	健康科学特論	<p>健康的で幸福な生活の実現をめざす健康長寿に向けての支援は、精神的、身体的、社会的、そして生活のゆたかさや質の高さなど多角的な視点からの考察が必要である。ここでは、健康や健康長寿とは何かをふまえ、子どもへの発達支援や高齢者支援での芸術療法の実践例、そして健康回復・維持のための安全性の高い薬物療法のあり方などを検討し、健康長寿に向けた望ましい健康づくりへのアプローチについて探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (① 稲田雅美/6回) 健康維持・増進・回復のための代替医療の中の芸術療法について概観し、子どもへの発達支援や高齢者支援での幅広い芸術療法など、実践例をふまえて検討する。</p> <p>(④ 村上元庸/6回) 健康回復・維持・増進のための臨床医学、中でも高齢者医療や薬物療法と健康について概観し、実践例をふまえて検討する。</p> <p>(⑤ 岡山寧子/3回) 健康や健康長寿について概観し、健康長寿をめざした望ましい健康づくりのあり方について考察する。</p>	オムニバス方式		
専門科目	看護学研究科目	臨床看護学領域	成人看護学特論 I	<p>生命の危機的および回復過程にある状況の患者・家族を理解するために有用な中範囲理論を学習する。また、重症度や緊急性を的確に判断するためのスキルである臨床推論について検討する。さらに成人看護領域のクリティカルケアおよびリハビリテーション看護の最近の研究動向を概観することで、修士論文で取り組む学生の研究の位置づけを探索する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 當目雅代/10回) クリティカルな状況の中で、重症度や緊急性を的確に判断するためのスキルである臨床推論について検討する。また、クリティカルケアおよびリハビリテーション看護の最新の研究論文をクリティークし、成人領域における学生の研究課題の位置づけを探索する。</p> <p>(12 光木幸子/5回) 生命の危機的および回復過程にある状況の成人患者・家族に生じる看護現象を説明したり、検証するために看護の関連する中範囲理論について検討する。</p>	オムニバス方式
			成人看護学特論 II	<p>慢性疾患やがんとともに生活する人とその家族を理解するために有用な中範囲理論を学び、研究や実践にどのように適用できるのかを探索する。さらに成人看護学領域の慢性疾患看護およびがん看護の最近の研究動向を概観することで、修士論文で取り組む研究の位置づけを探索する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (7 當目雅代/5回) QOL論・自己効力感・エンパワメント・ソーシャルサポートなどの中範囲理論を理解し、慢性疾患やがん患者および家族に生じる看護現象を説明したり、検証することができるよう教授する。</p> <p>(12 光木幸子/10回) 慢性疾患病みの軌跡・セルフケア論・症状セルフマネジメント・病気の不確かさ理論・喪失と悲嘆・自己概念などの中範囲理論を理解し、慢性疾患やがん患者および家族に生じる看護現象を説明したり、検証することができるよう教授する。また、慢性疾患看護およびがん看護の最新の研究論文をクリティークし成人領域における学生の研究課題の位置づけを探索する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(看護学研究科看護学専攻)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 科 目	臨床看護学領域	ウイメンズヘル ス特論 I	女性のライフスタイルに伴って変化する身体的、心理的、社会的、文化的な健康と健康課題、特に妊娠、出産、育児を経験する女性とその家族の健康と健康問題に関する文献をクリティークし、女性とその家族の健康支援に必要な理論、アセスメント・援助方法について現代の社会情勢やケアシステムを踏まえて研究的に分析する。		
		ウイメンズヘル ス特論 II	女性の生殖に関する健康問題や健康関連行動・セルフケア行動とストレス、ソーシャルサポート、ライフスタイル、自己効力感、パーソナリティなどの心理社会的要因に関する研究論文の講読や事例検討から、基盤となる理論、概念、研究方法、研究動向の理解を深める。そして、妊娠期、育児期のセルフケアと健康関連行動など、現代の女性の健康課題に対して、エビデンスに基づく健康の維持・増進の方策について探究する。		
	看護学研究科目	高齢者・在宅看 護学特論 I	高齢者に多い疾患や加齢変化に伴う生活機能の低下によって直面する日常生活上の課題について検証し、個々に対応した健康維持・増進・回復に必要な看護について探究する。  (オムニバス方式/全15回) (④ 村上元庸/4回) 老化理論や老年症候群、高齢者に多い疾患・治療、薬物療法の特徴、認知症の病態やケアなどから高齢者の健康と医療について考察する。  (⑤ 岡山寧子/11回) 現代社会における高齢者像や生活状況から健康長寿について考察する。さらに、生活機能低下、中でもフレイルやサルコペニアなどの予防支援、安心・安全な暮らしをまもる支援などから、現在展開されている健康長寿をめざした活動を検証し、看護の方法を探究する。	オムニバス 方式	
			高齢者・在宅看 護学特論 II	様々なライフステージ、健康状態にある在宅療養者と家族を支える在宅看護の現状と課題を学修し、地域包括ケア実現に向けた多職種連携と在宅看護の在り方、看護職の役割を探究する。  (オムニバス方式/全15回) (2 小松光代/11回) 在宅看護に活用できる理論・モデルを解説し、多様な健康レベルにある療養者の在宅看護のあり方、保健医療福祉制度や家族への支援について探究するとともに権利保障の課題を明らかにし解決策を検討する。また、在宅看取りをすすめる政策背景や医療依存度の高い療養者を支える看護職の役割について考察する。  (⑨ 杉原百合子/4回) 家族アセスメントの理論・モデルを解説し、多職種連携による療養者と家族支援の在り方を探究する。地域包括ケアの確立に向けた現状と課題から在宅療養を支える看護職の役割を探究する。	オムニバス 方式
		広域看護学領域			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	看護学研究科目 広域看護学領域	<p>個人、家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護の課題解決のための方策を探究し、公衆衛生看護実践能力の向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)            (③ 榎本妙子/8回)            健康を多面的にとらえ、エビデンスに基づく健康課題の抽出から保健活動の計画と評価、政策立案までのプロセスを修得することにより、公衆衛生看護における保健師の役割と機能を探究する。</p> <p>(⑥ 橋本秀実/3回)            公衆衛生看護の立場から国際保健活動を探究する。</p> <p>(⑧ 三橋美和/4回)            保健行動理論をもとに、行動変容のための支援と保健師の役割を探究する。</p>	オムニバス方式
		<p>個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護の理論をふまえながら、健康課題解決のための方策を母子・成人・精神保健活動、学校保健・産業保健活動、国際保健活動の看護実践能力向上を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)            (③ 榎本妙子/3回)            社会環境の変化と健康課題、保健師活動の変遷について理解を深める。</p> <p>(⑥ 橋本秀実/6回)            地域におけるコミュニティの特性に応じた支援方法について理解を深める。</p> <p>(⑧ 三橋美和/6回)            公衆衛生看護活動の対象のライフサイクル別にみた健康課題と支援方法について理解を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護学研究科目	看護学演習	<p>学生個々の専門領域における特論などで学修した知識をもとに、その実際や国内外の文献を検討し、文献レビュー、クリティーク、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより自らの研究課題の明確化を進める。</p> <p>(2 小松光代) 在宅で療養する人と家族を対象とした看護や多職種連携における看護職の役割、地域包括ケアシステムの推進などをテーマに取り上げ、その実際や国内外の文献検討などにより考察を深める。あわせて、学生の研究課題の明確化、焦点化をはかる。</p> <p>(2 眞鍋えみ子) 妊産褥婦及び育児期の女性とその家族を対象とした健康教育の実施、ライフスタイルの実態調査や文献検討等により、対象のセルフケアの向上を目指したケアのあり方を探求する。</p> <p>(3 榎本妙子) 公衆衛生看護にかかる現状と課題をふまえて、国内外の文献収集とクリティークを行い、それらから考察したことをもとに研究課題を明確にする。</p> <p>(4 村上元庸) 高齢者の健康の意味を考え、健康長寿に向けた医療・看護に関しての文献レビューやクリティークなどを通して研究課題の明確化をはかる。</p> <p>(5 岡山寧子) 高齢者の健康の維持・増進や回復支援、介護予防、健康長寿など高齢者ケアの様々な局面を取り上げ、その実際や文献クリティークなどにより考察を深める。あわせて、学生の研究課題の明確化、焦点化のために国内外の文献を検討する。</p> <p>(7 當目雅代) 成人期にある対象者の研究課題を解決するために多様な研究方法論について検討し、適切な研究方法を決定する。また、文献レビューやクリティークを行いながら、取り組む研究課題の意義を明確にする。さらに、研究で用いる主要概念の定義を明らかにする。</p> <p>(7 和泉美枝) 妊産褥婦及び育児期の女性を対象として、妊娠・出産にともなう生理的变化と生活習慣の実態調査、文献の検討等による、対象とその家族の健康の維持増進を目指したケアのあり方を探求する。</p> <p>(8 三橋美和) 地域における健康およびQOLの向上をめざした保健師の支援について、その実際や国内外の文献検討をもとに、プレゼンテーション、ディスカッションを行うことにより考察を深め、自らの研究課題の明確化を進める。</p> <p>(12 光木幸子) 成人期にある対象者の研究課題を解決するために多様な研究方法論について検討し、適切な研究方法を決定する。また、文献レビューやクリティークを行いながら、取り組む研究課題の意義を明確にする。さらに、研究で用いる主要概念の定義を明らかにする。</p> <p>(9 杉原百合子) 在宅・施設で生活する要介護高齢者、特に認知症の人とその家族のQOL向上を目指した支援などをテーマに取り上げ、その実際や国内外の文献検討などにより考察を深める。あわせて、学生の研究課題の明確化、焦点化をはかる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 助産学実践科目 基盤科目	助産学概論	<p>助産の変遷や課題について理解し、助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割、将来の方向性について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 眞鍋えみ子/10回) 助産とその歴史、関連する法律、母子保健の変遷、助産学教育の動向、国内外における助産師活動など現代の助産を取り巻く状況や助産学の基礎となる概念や理論を学ぶ。さらに、対象の権利を擁護しながら助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割を考える視点を養い、助産師としてのアイデンティティ形成を図る。</p> <p>(19 浅田祥子/2回) 周産期の倫理的問題に関する事例を取り上げ、ケアの視点や意思決定のプロセスについて考える。</p> <p>(40 高田昌代/3回) 対象の権利を擁護しながら助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割を考える。</p>	オムニバス方式
	リプロダクティブヘルス論	<p>女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康支援の展開に必要な知識と原理・技法について学び、女性やその家族の健康課題や望ましい支援のあり方について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 眞鍋えみ子/3回) 女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルス・ライツとその支援に関するディスカッションにより女性をエンパワメントする方策について検討する。</p> <p>(18 谷直之/2回) ジェンダーにかかわる法的問題について、労働、家族、暴力、性などの視点から検討する。</p> <p>(22 藤井ひろみ/2回) 性的マイノリティの抱える課題を理解し、その支援や取り組みについて考察する。</p> <p>(29 内藤和郎/4回) 性と生殖の形態と機能について、解剖・生理、性周期と生殖のメカニズム、内分泌環境、女性ライフサイクルにおける疾患などについて学ぶ。</p> <p>(32 中村嘉孝/4回) 不妊症や不育症の原因と診断、生殖補助医療の最新治療や技術について学び、生殖補助医療における多職種連携について検討する。</p>	オムニバス方式
	ペアレンティング援助論	<p>家族のライフスタイルおよび親役割の発達に応じたニーズを理解し、助産師の役割について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑦ 和泉美枝/6回) 母性・父性の心理、周産期の女性の心理(妊娠・分娩・産褥期や育児不安など)について理解する。妊娠・育児期の支援活動の見学や事例検討を通して、親役割の発達、母性・父性の育成とその課題をアセスメントし、その支援方法について検討する。</p> <p>(14 植松紗代/3回) 妊娠・育児期の女性と乳幼児期の睡眠の特徴を理解し、サーカディアンリズムの視点から生活リズムの確立とその支援について検討する。</p> <p>(31 中川淑子/6回) 親子の始まりである周産期において、成長・発達していく赤ちゃん和家人の関係性を重視し、周産期に求められるこころのケアとその技法について理解する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	助 産 学 実 践 科 目	基 盤 科 目	<p>妊娠期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と妊娠期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術や妊婦の日常生活適応を高める支援に関する理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑦ 和泉美枝/8回) 妊婦の身体的・心理的・社会的変化が正常か、正常からの逸脱かについて判断する助産診断能力を育成するための知識と方法・技術を修得する。</p> <p>(17 小切間美保/2回) 妊娠期・母乳育児期の女性の栄養管理に関する基礎的知識を学ぶ。</p> <p>(29 内藤和郎/5回) 妊娠の診断、胎児Well-beingの評価、母子感染や母体合併症や正常からの逸脱のスクリーニングなどの妊婦管理のための知識、診断能力を修得する。</p>	オムニバス方式
			<p>分娩期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と分娩期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (14 植松紗代/10回) 分娩期の母児の健康診断と経過診断及び異常発生の予測や予防、早期発見に関する助産診断能力を育成するための知識と方法・技術を修得する。さらに、分娩期の女性の心理的变化について学び、対象者とその家族に寄り添う助産実践について探求する。</p> <p>(29 内藤和郎/5回) 分娩期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療について学ぶ。</p>	オムニバス方式
			<p>産後の母子の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う技術と新生児の病態生理・医学的ケアと健康支援の展開に必要な知識を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (⑦ 和泉美枝/9回) 産褥期にある女性の身体的・心理的・社会的変化について理解し、適切な経過診断とケアを行うための助産診断能力を育成するための知識と技術を修得する。母子関係や家族関係について理解を深め、褥婦のセルフケア能力を高める支援、育児支援、母乳育児支援、家族の愛着形成の支援について理論に基づいた実践方法を学ぶ。さらに、新生児期の診断とケアに関する理論と実践方法やハイリスク新生児および家族に対する支援について探究する。</p> <p>(27 桑原勲/6回) 胎児期の身体的発育および機能の発達、およびその逸脱状態、新生児の身体的機能や胎外生活適応過程、ハイリスク新生児の特徴などの胎児期、新生児期、乳児期の発育・発達についての知識を学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 助産学実践科目 基盤科目	助産診断技術学演習	<p>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期助産診断技術学で習得した知識や理論を統合し、助産過程の展開や助産実践に必要な諸技能・ケアの評価方法を習得する。周産期のケア場面のシミュレーション学習や助産OSCEを通して、助産診断の統合や援助技術の習得状況を評価し、自らの課題を明確にする。周産期に必要な助産診断・技術を修得していくプロセスにおいて、助産師に期待される役割や姿勢・態度を探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (7 和泉美枝/5回) 妊娠期・産褥期の問診、全身のフィジカルイグザミネーション技術とその得られた情報の解釈、新生児期のフィジカルイグザミネーション技術や養育方法などの助産過程が展開できる能力を修得すると共に、対象の個別性を尊重したケア技術を探求する。妊娠期や産褥期に必要な保健指導や健康教育を対象の時期や背景を考慮して、集団と個人への指導を組み合わせた効果的な方法で企画・実践できるよう知識と能力を養う。</p> <p>(14 植松紗代/6回) 女性の産む力をひきだす、自然で安全・快適で、根拠に基づき、バースプランを尊重した分娩期のケア技術、分娩介助法、分娩促進ケアや出生直後の新生児の胎外生活への適応促進のためのケアができる能力を養う。産婦や新生児の事例を用いて助産過程を展開し、分娩期に必要な助産診断のプロセスを理解すると共に対象の個別性を尊重したケア技術を探求する。</p> <p>(26 越山茂代/6回) 科学的・効果的な母乳育児支援技術の習得を目指して、母乳育児についての基本的知識、妊娠中から出産後の母乳育児支援、エモーショナル・サポートの技法を学ぶ。</p> <p>(34 緒方あかね/2回) 事例を通して、リスクのある妊産褥婦のケアや周産期におけるメンタルヘルスへの支援について学ぶ。</p> <p>(37 大内裕美/4回) 出生直後の新生児の救急蘇生法の基礎知識と技術を学ぶ。シミュレーターを用いた演習を実施し、国際基準の新生児蘇生法を修得する。</p> <p>(42 谷口利絵/4回) フリースタイル出産における分娩介助技術の原理と技法について学ぶ。</p> <p>(43 渡邊裕也/3回) 女性を対象としたエクササイズに関する教室展開の基礎として、身体活動、有酸素運動、筋力トレーニングなどの原理と基本動作や特徴、留意点について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	地域母子保健論	<p>母子保健行政の仕組み、制度・施策、社会資源、関係機関・関連職種との連携を理解して、地域社会での助産師の役割と活動を探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (3 榎本妙子/2回) 地域で生活する個人・家族および集団の特徴や諸条件をふまえて、母子保健体系に基づいて展開される保健事業の法的根拠、展開方法や他職種の連携を理解する。</p> <p>(8 三橋美和/2回) 地域で生活する個人・家族および集団の特徴や諸条件をふまえて、変化する社会における地域母子保健の今日的課題について理解し、地域母子保健の意義について考察する。</p> <p>(21 江守晃子/2回) DVは周産期に増加する傾向にあるため、その早期発見や初期対応や緊急対応の技法を学ぶ。</p> <p>(23 藤原朋子/2回) 継続的な育児支援ができるために、新生児家庭訪問技術の理論と実際について学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	助 産 学 実 践 科 目	基 盤 科 目	<p>助産マネジメント論</p> <p>周産期医療システム、周産期の医療安全の確保と医療事故への対応、災害時の対応について学ぶ。場に応じた助産業務管理（病院、院内助産院、診療所、助産所）や他職種との連携、業務管理に必要な能力を養う。さらに母子や家族への安全、安心、快適なより望ましい助産ケアの提供システムについて検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 眞鍋えみ子/5回)</p> <p>助産師の業務管理、運営に関する法律を基礎として、助産業務管理の特性と課題や助産師として医療安全に向けたマネジメントを医療の動向をふまえて検討する。</p> <p>(20 芦田千恵美/4回) 助産所における助産業務の管理、および医療事故を予防するために必要な基本的な管理を学び、自律した助産師のあり方を考察する。また、独立開業を行う場合に必要となる資源、人材等の経営的視点について学ぶ。</p> <p>(24 初田聡美/2回) 院内助産システムの目的、運営等を学び、施設内における自律した助産師活動のあり方を考察する。</p> <p>(41 竹内芳子/4回) 病院における助産業務の管理、および医療事故を予防するために必要な基本的な管理や他職種との連携について学ぶ。</p>	オムニバス方式
			<p>助産学実習Ⅰ</p> <p>周産期における対象を理解し、生理的な経過をたどる妊産褥婦・新生児への助産ケアについて科学的根拠に基づいて考え、実践できる能力（理論と実践を統合させる思考力）を育成する。特に母子とその家族を総合的に理解し、対象者の個別性を尊重した助産ケアの実践、健康の保持増進のための健康教育および育児支援の実践、対象者との間に信頼関係を築きながら最善のケアが提供できる能力を修得する。</p>	
			<p>助産学実習Ⅱ</p> <p>助産学実習Ⅰでの学習をもとに、周産期における対象を理解し、各期の助産診断を行うとともにその診断に応じた看護・助産を実践できる能力を習得する。 正常な妊産褥婦・新生児を対象とした診断、分娩介助、妊産褥婦・新生児管理の経験を通して、エビデンスに基づく安全で安心な分娩の基本的な介助技術および個別性を尊重した産褥期や新生児ケアを提供する能力を修得する。さらに、周産期から育児期の継続したケアおよび健康支援を通して、対象者の主体性や個別性を尊重しつつ、女性や家族のもつ能力をエンパワメントできる援助について考察する。 病院や診療所の特性や周産期医療における役割を理解し、助産活動に必要な連携についても考察する。</p>	
			<p>助産学実習Ⅲ</p> <p>助産学実習ⅠⅡでの学習をもとに、妊娠中期～産後1ヶ月までの事例を継続して受け持ち（継続事例）、助産過程を展開し、対象のニーズや個別性、多様性を理解する。そして、安全・安心・快適・満足なお産の実現に向けた助産師の役割を学び、個別性を尊重した助産ケアの実践や多職種および地域との連携の必要性やそのあり方、助産ケアや保健サービス等に対する課題を抽出し、これらの向上のための方策等について考察する。さらに、これらの実践を通して、助産師の責任と役割を認識し、専門職としてのアイデンティティを育む。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 助産学実践科目 発展科目	赤ちゃん学特論	<p>さまざまな「子どもの心の問題」が社会問題化している現在、そうした問題の根本にある子どもの心と身体の発達とその関係について総合的に人の行動のはじまりとしての胎児研究に注目して、新生児・乳児・幼児と一貫した研究、さらに心理学や医学といった一つの研究分野にかたよることのないよう文理融合をめざした最新の研究について学習する。</p>	隔年
	国際母子保健論	<p>国際社会における母子保健やリプロダクティブヘルス・ライツの課題や国際支援の現状を理解し、母子の健康をグローバルな視点から学び、助産師の役割について探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (⑥ 橋本秀実/4回) 途上国での女性や子どもたちの生活する環境・文化を理解し、その改善のための母子保健施策や母子の健康に対するケアの動向を学習する。</p> <p>(38 嶋澤恭子/4回) 助産師の行う国際保健医療活動より、世界の出産事情や産育習俗に関する多様性を理解し、途上国における助産師の活動や在日外国人支援に関する今後のあり方や役割について考察する。</p>	オムニバス方式 隔年
	統合ヘルスケア論	<p>周産期に用いられる東洋医学(指圧・鍼灸など)を中心とした安楽法やリラクゼーション法(アロマ、タッチケアなど)について学び、周産期の疼痛や不快症状の緩和やその評価方法を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (36 大本千佳/4回) 周産期におけるリラクゼーション法(アロマ、タッチケアなど)の基本的な原理を学び、周産期でのケアへの応用を考える。</p> <p>(39 田口玲奈/4回) 東洋医学における診察技術を学び、周産期でのケアに応用できるツボ療法や鍼灸の基礎的な技術を修得する。</p>	オムニバス方式
	遺伝カウンセリング論	<p>成育医療における生命倫理および遺伝カウンセリングに関する知識を理解し、遺伝相談カウンセリングの現状と課題について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (28 三島祐子/2回) 成育医療のなかの小児領域における遺伝カウンセリングの現状と課題や染色体異常症や遺伝性疾患、各種先天疾患児の健康管理や成長発達の評価やその支援について理解する。対象者とその家族の意思決定および意思決定に対する精神的支援の方法や他職種との連携について考える。</p> <p>(35 大橋優気/6回) 遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病などの患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解し、生命倫理にもとづく遺伝カウンセリングの現状と課題や支援について学ぶ。</p>	オムニバス方式 隔年

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	助 産 学 実 践 科 目	発 展 科 目	<p>リプロダクティブヘルス論や助産診断技術学演習での学習をもとに女性の健康の保持・増進、リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、対象の特性や主体性・個別性を尊重した個人および集団への健康教育・相談・支援に関する諸技法への理解を深め、実践する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 眞鍋えみ子/7回) 性と生殖に関する制度の現状と課題を理解し、家族の健康を中心とした家族計画支援や母体保護に基づく家族計画のあり方について検討する。対象の身体的、心理的、社会的健康状態のアセスメントと支援に必要な知識、相談・教育・援助技術の原理や方法を学ぶ。また、家族計画指導に必要な受胎調節に関する知識・技術を学ぶ。性感染症や人工妊娠中絶の問題についても討議を通して考える。 集団健康教育や参加型保健指導の理論と技法を学び、周産期もしくは育児期にある女性を対象としたエクササイズに関する教室を企画・実践する。</p> <p>(⑦ 和泉美枝/2回) リプロダクティブヘルスの視点から、いのちの誕生、思春期のからだと心、ヒトパピローマウイルス感染症など性感染症や人工妊娠中絶のリスクと予防などに関する性教育を小学校などで実践し、学校、地域社会における助産師の役割について考察する。</p> <p>(31 中川淑子/4回) リプロダクティブヘルスの視点から、小学校などにおける性教育の企画・実践に必要な技法について習得する。</p> <p>(45 山中聡/2回) 生物学的社会的な視点から家族計画の意義について検討し、創薬の視点からみた経口避妊薬の研究開発や薬事法など関連法規について学ぶ。</p>	オムニバス方式
			<p>周産期における高度専門職として、高度な診断能力と実践力を有し、緊急時の対応やエビデンスに基づいた最新の知識・技術が提供できる実践力を培う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (② 眞鍋えみ子/2回) 安心・安全な出産環境を整え、周産期の母体安全を確保するための分娩取扱施設での急変発生時の初期対応と助産師の役割について考える。また、ストレスコーピングの視点から出産前に胎児の死亡が確認された事例や出産後に児を失った事例において家族が死を受容する心理過程について検討し、周産期におけるグリーフケア時の助産師の役割について考察する。</p> <p>(29 内藤和郎/4回) 会陰切開および会陰縫合の適応とその方法、婦人科的診察と子宮がんのスクリーニング検査の方法を習得する。</p> <p>(44 山畑佳篤/4回) 産後の出血性ショック、肺塞栓症、子癇などの母体急変時の知識や母体の救命処置の実技、チームワークと連携強化についてシミュレーション場面で学習する。</p> <p>(46 吉田英美/5回) 助産診断を補うために超音波診断の基礎的画像診断能力を養うとともに、基礎的な超音波装置の走査法および画像診断法をシミュレーションモデルや画像などを用いて修得する。</p>	オムニバス方式
			<p>ハイリスクな状況にある妊産褥婦や胎児・新生児とその家族に対し、特性に合わせた助産ケアを提供する能力を修得する。身体的・心理的・社会的側面から統合的に対象の理解、助産計画の立案、ケアの実践を通して、自律した専門職者としての役割を認識しハイリスク管理の重要性、地域の社会資源の活用、多職種・組織との連携のあり方や包括的なケアについて探究できる力を養い、助産師の倫理的態度について考察を深める。</p>	
			<p>助産学実習 I～IVの統合と位置づけ、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象とその家族の特性に合わせた包括的な助産ケアを提供する能力を修得する。助産所などにおける助産業務管理の実際を学び、望ましい援助や管理システムの構築を追求する。さらに、自律した助産師としての姿勢や援助のあり方を学び、専門職としてのアイデンティティを形成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究	<p>特別研究は、学生個々の専門領域における特定の看護の課題に対して研究に取り組み、修士論文を作成できるように指導する。具体的には文献研究や現状分析から研究の意義を明らかにし、研究計画立案から実施、論文作成など研究プロセスに沿って実施できるように指導する。</p> <p>(2 小松光代) 超高齢社会において要介護状態となっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域包括ケアの実現を目指して、高齢者と家族の看護について研究指導を行う。健康な高齢者の介護予防から認知症のある人の看護まで多職種連携を視野に入れた研究指導を行う。</p> <p>(2 眞鍋えみ子) 妊産褥婦及び育児期の女性やその家族に対するケア、健康教育とその効果などについて研究し、論文作成を指導する。</p> <p>(3 榎本妙子) 地域、学校、事業所における個人、家族、集団、地域への健康支援をテーマに論文を作成し、公衆衛生看護実践能力の向上と基本的な研究能力を養う。</p> <p>(4 村上元庸) 加齢とともに発生頻度の高くなる疾患リスクをもつ高齢者の健康の意味を考え、健康長寿に向けた医療・看護に関する研究課題に取り組み、論文作成ができる研究指導を行う。</p> <p>(5 岡山寧子) 介護予防など健康長寿をめざした支援や要介護高齢者のQOL向上をめざした支援に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(7 當日雅代) 成人期にある対象者と家族あるいは成人期の患者を対象とする看護職が抱く医療・看護における研究課題に取り組み、成人看護学の発展に寄与できる論文を作成できる研究指導を行う。</p> <p>(6 橋本秀実) 在日外国人への健康支援や学校における児童生徒の健康支援をテーマに論文を作成し、公衆衛生看護実践能力の向上と基本的な研究能力を養う。</p> <p>(7 和泉美枝) ライフステージ各期にある女性とその家族の健康問題について、QOLの向上の視点から支援方法を探究する。</p> <p>(10 木村洋子) 地域で暮らす精神疾患をもつ個人とその家族を対象に、その人らしい生活を支援することをテーマとして取り上げ、修士論文を作成する。</p> <p>(8 三橋美和) 地域において個人・家族、集団、地域を対象として行われる、健康およびQOLの向上をめざした支援、具体的には母子保健活動、精神保健活動等における保健師の支援に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(12 光木幸子) 慢性疾患やがんとともに生活する個人と家族の看護現象に焦点をあて、有用な看護支援やシステム構築の基礎となる研究を行い、看護学への発展に向けた基礎的能力を養う。</p> <p>(9 杉原百合子) 在宅・施設で生活する要介護高齢者、特に認知症の人とその家族のQOL向上を目指した支援に関する課題の研究指導を行う。</p>	
	課題研究	<p>ウイメンズ看護学領域、助産学実践分野の科目履修を通して見出した研究課題を追及し、研究のプロセスに沿って実践的かつ実証的に研究を行い、課題研究論文としてまとめる。課題研究を通して助産師として必要な研究能力を修得する。具体的には、助産における研究の意義と特徴、研究デザインの考え方、研究方法、倫理上の配慮など、研究を進める上で必要な知識への理解を深めるとともに助産実践から研究疑問を抽出し、研究計画書を作成し、実施した結果を論文にまとめ発表会で発表する。</p> <p>(2 眞鍋えみ子) 女性の心身の健康の維持増進やリプロダクティブヘルスに関するテーマを取り上げ検討する。</p> <p>(7 和泉美枝) 女性の身体的、精神的特徴に着目し、女性とその家族の心身の健康の維持増進に関する研究指導を行う。</p>	

学校法人同志社 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学定員	編入学 定員	収容定員
同志社女子大学			
学芸学部			
音楽学科			
演奏専攻	75	—	300
音楽文化専攻	40	—	160
情報メディア学科	120	—	480
国際教養学科	80	—	320
現代社会学部			
社会システム学科	300	—	1,200
現代こども学科	100	—	400
薬学部			
医療薬学科	120	—	720
看護学部			
看護学科	80	—	320
表象文化学部			
英語英文学科	145	—	580
日本語日本文学科	120	—	480
生活科学部			
人間生活学科	80	—	320
食物栄養科学科			
食物科学専攻	55	—	220
管理栄養士専攻	80	—	320
計	1,395	0	5,820

平成30年度	入学定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
同志社女子大学				
学芸学部				
音楽学科				
演奏専攻	75	—	300	
音楽文化専攻	40	—	160	
メディア創造学科	120	—	480	名称変更
国際教養学科	80	—	320	
現代社会学部				
社会システム学科	300	—	1,200	
現代こども学科	100	—	400	
薬学部				
医療薬学科	120	—	720	
看護学部				
看護学科	80	—	320	
表象文化学部				
英語英文学科	145	—	580	
日本語日本文学科	120	—	480	
生活科学部				
人間生活学科	80	—	320	
食物栄養科学科				
食物科学専攻	55	—	220	
管理栄養士専攻	80	—	320	
計	1,395	0	5,820	

平成29年度	入学定員	編入学 定員	収容定員
同志社女子大学大学院			
文学研究科			
英語英文学専攻(M)	8	—	16
日本語日本文化専攻(M)	10	—	20
情報文化専攻(M)	5	—	10
英語英文学専攻(D)	4	—	12
日本語日本文化専攻(D)	4	—	12
国際社会システム研究科			
国際社会システム専攻(M)	10	—	20
生活科学研究科			
生活デザイン専攻(M)	5	—	10
食物栄養科学専攻(M)	8	—	16
薬学研究科			
医療薬学専攻(4年制D)	4	—	16
計	58	0	132

平成30年度	入学定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
同志社女子大学大学院				
文学研究科				
英語英文学専攻(M)	8	—	16	
日本語日本文化専攻(M)	10	—	20	
情報文化専攻(M)	5	—	10	
英語英文学専攻(D)	4	—	12	
日本語日本文化専攻(D)	4	—	12	
国際社会システム研究科				
国際社会システム専攻(M)	10	—	20	
生活科学研究科				
生活デザイン専攻(M)	5	—	10	
食物栄養科学専攻(M)	8	—	16	
看護学研究科				
看護学専攻(M)	6	2	12	研究科の設置(認可申請)
薬学研究科				
医療薬学専攻(4年制D)	4	—	16	
計	64	0	144	

学校法人同志社 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
同志社大学				同志社大学				
神学部				神学部				
神学科	60	—	240	神学科	63	—	252	定員変更(3)
文学部				文学部				
英文学科	300	—	1,200	英文学科	315	—	1,260	定員変更(15)
哲学科	65	—	260	哲学科	70	—	280	定員変更(5)
美学芸術学科	65	—	260	美学芸術学科	70	—	280	定員変更(5)
文化史学科	120	—	480	文化史学科	125	—	500	定員変更(5)
国文学科	120	—	480	国文学科	125	—	500	定員変更(5)
社会学部				社会学部				
社会学科	82	—	328	社会学科	90	—	360	定員変更(8)
社会福祉学科	93	—	372	社会福祉学科	98	—	392	定員変更(5)
メディア学科	83	—	332	メディア学科	88	—	352	定員変更(5)
産業関係学科	82	—	328	産業関係学科	87	—	348	定員変更(5)
教育文化学科	75	—	300	教育文化学科	79	—	316	定員変更(4)
法学部				法学部				
法律学科	650	—	2,600	法律学科	683	—	2,732	定員変更(33)
政治学科	200	—	800	政治学科	210	—	840	定員変更(10)
経済学部				経済学部				
経済学科	850	—	3,400	経済学科	893	—	3,572	定員変更(43)
商学部				商学部				
商学科	850	—	3,400	商学科	893	—	3,572	定員変更(43)
政策学部				政策学部				
政策学科	400	—	1,600	政策学科	420	—	1,680	定員変更(20)
文化情報学部				文化情報学部				
文化情報学科	280	—	1,120	文化情報学科	294	—	1,176	定員変更(14)
理工学部				理工学部				
インテリジェント情報工学科	79	2	320	インテリジェント情報工学科	83	2	336	定員変更(4)
情報システムデザイン学科	79	2	320	情報システムデザイン学科	83	2	336	定員変更(4)
電気工学科	74	2	300	電気工学科	80	2	324	定員変更(6)
電子工学科	84	2	340	電子工学科	86	2	348	定員変更(2)
機械システム工学科	89	2	360	機械システム工学科	96	2	388	定員変更(7)
エネルギー機械工学科	69	2	280	エネルギー機械工学科	70	2	284	定員変更(1)
機能分子・生命化学科	79	2	320	機能分子・生命化学科	83	2	336	定員変更(4)
化学システム創成工学科	79	2	320	化学システム創成工学科	83	2	336	定員変更(4)
環境システム学科	49	2	200	環境システム学科	51	2	208	定員変更(2)
数理システム学科	39	2	160	数理システム学科	41	2	168	定員変更(2)
生命医科学部				生命医科学部				
医工学科	90	—	360	医工学科	100	—	400	定員変更(10)
医情報学科	90	—	360	医情報学科	100	—	400	定員変更(10)
医生命システム学科	60	—	240	医生命システム学科	65	—	260	定員変更(5)
スポーツ健康科学部				スポーツ健康科学部				
スポーツ健康科学科	210	—	840	スポーツ健康科学科	221	—	884	定員変更(11)
心理学部				心理学部				
心理学科	150	—	600	心理学科	158	—	632	定員変更(8)
グローバル・コミュニケーション学部				グローバル・コミュニケーション学部				
グローバル・コミュニケーション学科	150	—	600	グローバル・コミュニケーション学科	158	—	632	定員変更(8)
グローバル地域文化学部				グローバル地域文化学部				
グローバル地域文化学科	180	—	720	グローバル地域文化学科	190	—	760	定員変更(10)
計	6,025	20	24,140	計	6,351	20	25,444	

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
同志社大学大学院					同志社大学大学院				
神学研究科				→	神学研究科				
神学専攻(M)	20	—	40		神学専攻(M)	20	—	40	
神学専攻(D)	5	—	15		神学専攻(D)	5	—	15	
文学研究科					文学研究科				
哲学専攻(M)	10	—	20		哲学専攻(M)	10	—	20	
英文学・英語学専攻(M)	20	—	40		英文学・英語学専攻(M)	20	—	40	
文化史学専攻(M)	15	—	30		文化史学専攻(M)	15	—	30	
国文学専攻(M)	10	—	20		国文学専攻(M)	10	—	20	
美学芸術学専攻(M)	5	—	10		美学芸術学専攻(M)	5	—	10	
哲学専攻(D)	5	—	15		哲学専攻(D)	5	—	15	
英文学・英語学専攻(D)	4	—	12		英文学・英語学専攻(D)	4	—	12	
文化史学専攻(D)	4	—	12		文化史学専攻(D)	4	—	12	
国文学専攻(D)	3	—	9		国文学専攻(D)	3	—	9	
美学芸術学専攻(D)	3	—	9		美学芸術学専攻(D)	3	—	9	
社会学研究科					社会学研究科				
社会福祉学専攻(M)	10	—	20		社会福祉学専攻(M)	10	—	20	
メディア学専攻(M)	5	—	10		メディア学専攻(M)	5	—	10	
教育文化学専攻(M)	7	—	14		教育文化学専攻(M)	7	—	14	
社会学専攻(M)	10	—	20		社会学専攻(M)	10	—	20	
産業関係学専攻(M)	5	—	10		産業関係学専攻(M)	5	—	10	
社会福祉学専攻(D)	6	—	18		社会福祉学専攻(D)	6	—	18	
メディア学専攻(D)	2	—	6		メディア学専攻(D)	2	—	6	
教育文化学専攻(D)	3	—	9		教育文化学専攻(D)	3	—	9	
社会学専攻(D)	5	—	15		社会学専攻(D)	5	—	15	
産業関係学専攻(D)	2	—	6		産業関係学専攻(D)	2	—	6	
法学研究科					法学研究科				
政治学専攻(M)	40	—	80		政治学専攻(M)	40	—	80	
私法学専攻(M)	45	—	90		私法学専攻(M)	45	—	90	
公法学専攻(M)	45	—	90		公法学専攻(M)	45	—	90	
政治学専攻(D)	5	—	15		政治学専攻(D)	5	—	15	
私法学専攻(D)	5	—	15		私法学専攻(D)	5	—	15	
公法学専攻(D)	5	—	15		公法学専攻(D)	5	—	15	
経済学研究科					経済学研究科				
理論経済学専攻(M)	25	—	50		理論経済学専攻(M)	25	—	50	
応用経済学専攻(M)	25	—	50		応用経済学専攻(M)	25	—	50	
経済政策専攻(D)	5	—	15		経済政策専攻(D)	5	—	15	
商学研究科					商学研究科				
商学専攻(M)	65	—	130		商学専攻(M)	65	—	130	
商学専攻(D)	5	—	15		商学専攻(D)	5	—	15	
総合政策科学研究科					総合政策科学研究科				
総合政策科学専攻(M)	70	—	140		総合政策科学専攻(M)	70	—	140	
総合政策科学専攻	15	—	45		総合政策科学専攻(D)	15	—	45	
文化情報学研究科					文化情報学研究科				
文化情報学専攻(M)	30	—	60		文化情報学専攻(M)	30	—	60	
文化情報学専攻(D)	5	—	15		文化情報学専攻(D)	5	—	15	
理工学研究科					理工学研究科				
情報工学専攻(M)	60	—	120		情報工学専攻(M)	60	—	120	
電気電子工学専攻(M)	70	—	140		電気電子工学専攻(M)	70	—	140	
機械工学専攻(M)	80	—	160		機械工学専攻(M)	80	—	160	
応用化学専攻(M)	80	—	160		応用化学専攻(M)	80	—	160	
数理環境科学専攻(M)	25	—	50		数理環境科学専攻(M)	25	—	50	
情報工学専攻(D)	5	—	15		情報工学専攻(D)	5	—	15	
電気電子工学専攻(D)	7	—	21		電気電子工学専攻(D)	7	—	21	
機械工学専攻(D)	8	—	24		機械工学専攻(D)	8	—	24	
応用化学専攻(D)	7	—	21		応用化学専攻(D)	7	—	21	
数理環境科学専攻(D)	3	—	9		数理環境科学専攻(D)	3	—	9	

平成29年度

入学  
定員

編入学  
定員

収容  
定員

生命医科学研究科			
医工学・医情報学専攻(M)	90	—	180
医生命システム専攻(M)	20	—	40
医工学・医情報学専攻(D)	2	—	6
医生命システム専攻(D)	12	—	36
スポーツ健康科学研究科			
スポーツ健康科学専攻(M)	8	—	16
スポーツ健康科学専攻(D)	3	—	9
心理学研究科			
心理学専攻(M)	10	—	20
心理学専攻(D)	4	—	12
グローバル・スタディーズ研究科			
グローバル・スタディーズ専攻(M)	45	—	90
グローバル・スタディーズ専攻(D)	18	—	54
ビジネス研究科			
ビジネス専攻(専門職)	30	—	60
グローバル経営研究専攻(M)	45	—	90
司法研究科			
法務専攻(専門職)	70	—	210
脳科学研究科			
発達加齢脳専攻(5年制D)	10	—	50
計	1,261	—	2,778

平成30年度

入学  
定員

編入学  
定員

収容  
定員

変更の事由

生命医科学研究科				
医工学・医情報学専攻(M)	90	—	180	
医生命システム専攻(M)	20	—	40	
医工学・医情報学専攻(D)	2	—	6	
医生命システム専攻(D)	12	—	36	
スポーツ健康科学研究科				
スポーツ健康科学専攻(M)	8	—	16	
スポーツ健康科学専攻(D)	3	—	9	
心理学研究科				
心理学専攻(M)	10	—	20	
心理学専攻(D)	4	—	12	
グローバル・スタディーズ研究科				
グローバル・スタディーズ専攻(M)	45	—	90	
グローバル・スタディーズ専攻(D)	18	—	54	
ビジネス研究科				
ビジネス専攻(専門職)	30	—	60	
グローバル経営研究専攻(M)	45	—	90	
司法研究科				
法務専攻(専門職)	70	—	210	
脳科学研究科				
発達加齢脳専攻(5年制D)	10	—	50	
計	1,261	—	2,778	